

研究会情宣局」のウェブサイトで読むことが可能である。

<http://seikeikenhypermartnet/jousen/kaseiou.html>

(注15) この論文は灘本昌久のウェブサイト上で読める。

<http://www.kyoto-su.ac.jp/~nadamoto/work/199304.htm>

(注16) 住井すゑに対する批判は、彼女の晩年に、隠蔽されてきた戦時下戦争協力が暴露されるに及んで、その角度から提出された(櫻本富雄「住井すゑにみる「反戦」の虚構」、「論座」一九九五年八月号など。拙著「超」言葉狩り論争」も参照)。しかし、「橋のない川」自体への批判的分析は、いまだ十分におこなわれていない。

(注17) 『橋のない川』上映阻止闘争が実は「窓口一本化」のタメにする闘争だったのではないかという疑惑の傍証として、その映画が今日、ビデオで公然と販売されているにもかかわらず(二〇〇一年七月、ほるぶ労組「大映から発売」〔現在は紀伊國屋書店からDVDが発売されている——後注)、解放同盟がそれに対して何のリアクションもおこしていないという事実がある。少なくともかつての上映阻止闘争のようなものは起こっていない。また、柳町「愛について、東京」のヴィデオも公然と流通している。

(注18) この部落民の定義が、第九章で触れた、「だれかがそれを芸術だと言えば、それが芸術だ」(ジャッド)という、ポストモダンの芸術の定義と相似的事であることに注意せよ。

(注19) この享楽の「匂い」にもっとも卑しく反応しているのが、「2ちゃんねる」の「人権」板に見られる差別的な書き込みである。